

○吾岡山○

公園化へ・・・

切り取り工事始まる

昨年二月、地元の運動が実り公園化への覚書が結ばれた吾岡山で、このほど切り取り工事が始まりました。

吾岡山は、昭和五十六年一月から三月にかけて、空港ジェット化のために、六三・五を五七・四にまで約六割をカット。そのときの条件として、地元としてはカッ

ト後の公園化を強く要望し、地元市、県、土地の所有者である日本セメントとともに話し合いを進めてきました。そして昨年二月協議がまとまり、四者で覚書の調印がされました。

それによると、①再カット工事は標高四十五メートルまで行う②工事は五年間をめぐりに南国市が行い、工事限度額は三千万円で県が三分の二を補助する③取付道入口の橋の工事は県が行う④再カット後、日本セメントの所有地(約七万二千平方メートル)は、南国市に無償譲渡する⑤工事終了後は、市は吾岡山の公園化事業を行う――などの内容となっています。

この覚書に基づき、昨年三月に

優勝しました。

競技は正選手八人で、合計体重五百六十キログラム以内というのがルール。メンバーのすべては、十市農協青壮年部員で、ふだんはシシトウ、ピーマン、ナスなどハウス園芸をしている皆さん。野球やマラソンなど、スポーツ好きの仲間です。

「練習とチームワークの良さで優勝できた」と、総監督を務める十市農協組合長の北村謙一さん。一月十五日、県立春野体育館で行われた「第二回高知県引選選手権大会」(県引選連盟主催)で、十市農協チームが、並ぶ強敵七十チームの中から勝ち抜き、見事

チームワークで 十市農協が優勝

県引選選手権大会

昨年の大会で、隣の三和チームが県大会で優勝したのがきっかけで、「やってみるか」と発奮。まず体形をビデオで研究し、昨年十一月から足腰を鍛えるためにマラソンや車を引っぱったりと、頭と体の練習を重ねました。その成果が実り、大会では危げなく優勝。西村孝司監督は「優勝は、日ごろの練習の成果です。全国大会では一回戦突破を目指します」と話していました。



力も込める、県大会での決勝戦

なお、二月九日東京都で開かれた全国大会では、健闘むなしく敗れてしまいましたが、持てる力は十分に出してきました。

は取付道入口の橋も完成。また、排水対策として戸井川の改修工事も進められてきており、一月には吾岡山の再カット工事がいよいよ始まりました。今年度は六百万円の予算で、約六千立方メートルの土石を採取する計画。五年間をかけて四十五メートルまで切り取り、それから公園化と、まだ先は長いですが、切り取りが進むにつれ、その姿は大きく変わろうとしています。